

# 2017 年度

## アメリカ留学報告書

留学先：セントラルミズーリ州立大学

実習期間：8月23日（木）～12月8日（日）

新潟国際情報大学  
国際文化学科  
学籍番号：21016074  
田中 克

## 目次

1	留学先及び実習期間	3
2	留学先概要	3
3	留学目的	3
4	留学内容	4
	4 - 1 留学のスケジュール	4 - 5
	4 - 2 留学の詳細	5 - 7
5	所感	8
6	おわりに	8
	謝辞	8

## 付録

	研修日誌	9
--	------	---

## 1 研修先及び実習期間

研修先：セントラルミズーリ州立大学

研修期間：平成 29 年 8 月 23 日（木）～平成 29 年 12 月 8 日（土）

※帰国は 12 月 9 日（日）

## 2 研修先概要

### (1)大学について

セントラルミズーリ州立大学は、ウォレンズバーグという人口約 2 万人の小規模な都市に位置する。1871 年創立で、150 年近くもの歴史を誇る。ウォレンズバーグはカンザスシティから東に約 80 キロ離れたところにある。大学周辺には住宅地が広がり、大学の近くには歴史の長いダウタウンというものがある。生徒数は 12000 名以上にのぼり、その内 2000 名以上が留学生である。全米 42 州、世界 61 か国と出身地も多岐にわたり、国際交流が非常に盛んである。近くに航空基地があるため、航空科が有名である。生徒の半分以上が航空科のクラスも多く存在した。

### (2)大学で行われている教育について

セントラルミズーリ州立大学には English Language Institute (以下 ELI) という部署が運営する Intensive English Program (以下 IEP、日本語訳は英語集中コース) というプログラムがある。この大学では 1 学期をセッション 1 とセッション 2 に分け、それぞれに中間試験と期末試験があるため、非常に質の高い教育を維持できている。IEP は英語を母語としない人のためのプログラムであり、韓国人や中国人、サウジアラビア人等様々な国籍の生徒が在籍していた。能力に応じて 1 から 9 までのレベルを割り当てられ、4 つのクラスに分けられる。1 つのセッション中で条件を満たすとレベルが上がる。日本の教育と違い授業中にディスカッションの時間が多く設けられ、様々な国の特徴的な英語や考え方に触れられるだけでなく、授業内容そのものについてもより理解を深めることができる。

## 3 留学目的

今回の留学の目的は、まず英語の能力向上が挙げられる。文法だけであつたら日本国内でも極めることは出来るかもしれないが、それだけでは言語を習得したとは言い難い。近年グローバル化が著しい社会についていくためにはスピーキングやリスニングの能力が非常に重要となってくる。これらの能力は実際にトレーニングしなければ身に付かない。そしてその機会は日本国内では非常に限られている。そのため、本物の英語に囲まれた環境に身を置くことでより実践的な英語を身につけることを目指した。また TOEIC の点数を上げることも目標であつた。

2 つ目の目標は視野の拡大である。出身国が違えば考え方にもいくつか違いが表れる。その違いを知ることは新たな発見をもたらす、考え方の幅が広がる。それにより、日本についてまた違った発見をすることも考えられる。同時に異文化交流を図ることも目指した。考え

方というものはその国の文化に強く関係するからである。ただ様々な意見に触れるのではなく、異なる文化に触れ日本との違いをより顕著に感じ取ることで、視野は大幅に拡大すると考えられる。

3つ目の目標は自立である。留学中は寮で生活することになる。自立するには最適な環境だ。自立した生活を送ることは将来必ず必要になる。また、海外に身を置くということは精神的な自立をもたらすと考えられる。異なった母語を使う人たちにしっかりと意見を伝えることは難しい。社会の仕組みも違うため様々な困難に直面することも考えられる。日本にいる時より他人に頼りにくい環境で困難に立ち向かうことで、真の意味での自立に近づくことが出来ると考えられる。

#### 4 留学内容

以下から留学の内容を記述する。

留学期間中に行った活動の詳細は付録に記載する。

##### 4 - 1 研修のスケジュール

留学期間中のスケジュールは以下のとおりである。

月	日 (曜日)	午前
8	23 (水)	到着、入寮
	24 (木)	オリエンテーション、健康診断
	25 (金)	プレースメントテスト、ボーリングパーティー
	28 (月)	IEP 授業 (セッション 1) 開始
9	1 (金)	アメフト観戦
	8 (金)	スモア (大学内)
	10 (日)	メジャーリーグ観戦
	11 (月)	中間試験 (授業中に行われた、各授業により日程は様々)
	14 (木)	
	22 (金)	American Culture trip (Jefferson City)
	23 (土)	International Student Organization (ISO) trip (Kansas City)
10	3 (火)	期末試験
	4 (水)	IEP 授業 (セッション 1) 終了
	5 (木)	小休暇
	8 (日)	Japan Festival ミュージカル鑑賞
	9 (月)	IEP 授業 (セッション 2) 開始
	14 (土)	Home Coming Parade
	16 (月)	American History trip
	27 (金)	American culture trip (Back Eye acre)

1 1	6 (月)	中間試験 (授業中に行われた、各授業により日程は様々)
	9 (木)	
	1 1 (土)	ISO Food Show
	1 7 (金)	サンクスギビングブレイク
1 2	2 6 (日)	
	4 (月)	期末試験
	5 (火)	IEP 授業 (セッション 2) 終了
	6 (水)	ELI パーティー
	7 (木)	TOEIC 試験
	8 (金)	帰国

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日
9 : 00-10 : 50	Reading	Communication Skills	Reading	Communication Skills
11 : 00-12 : 50	Writing	Grammar	Writing	Grammar
1 : 00-1 : 50	昼休み			
2 : 00-2 : 50	Accent Reduction	American Culture	Accent Reduction	American culture
3 : 00-3 : 50	American History	USA and Japan	Writing Lab	Grammar Lab
4 : 00-4 : 50	TOEIC Preparation		TOEIC Preparation	Conversation Partner Hour

これに加え各自不定期で Activity Buddy と交流した。

#### 4 - 2 研修の詳細

スケジュールに記載してある各項目の内容は以下のとおりである。

##### i) Reading

セッション1ではノンフィクション(主に論説文)を取り扱った。テキストに従って文章を読み解いていく。テーマは人類学と環境問題が特に多かった。そのため最初は専門用語の多さに戸惑う生徒も多数であった。セッション2では小説を取り扱った。セッション1で培った読解力も引き続き鍛えられたが、さらに登場人物の心情など文章に直接書かれていないことを読み取る力もつけていくことになる。授業はチャプターごとに区切って進めていく。

##### ii) Writing

英語でのレポートの書き方を主に練習する。セッション1のテーマは **Argumentative essay** で、いかに読者に問題の重要性を伝えるかというところに重点を置いていた。セッション2では **Problem and Solution essay** に取り組んだ。これはセッション1のような文章に解決策の提案が加わった文章である。1つのセッションにつき1つずつレポートを仕上げている。このほかに **Timed Writing** と **Free Writing** で早く文章を書くトレーニングもする。

### iii) Communication Skills

この授業は扱う内容が最も多い。1つめは、講話の音源を聞きそれについてのノートを完成させていくトレーニングである。主にリスニング力を鍛える。もう1つはプレゼンテーションである。プレゼンテーションの大まかな発表内容は **Writing** と同じである(話題は当然変える必要がある)。1つのセッション中に、グループプレゼンテーションと個人プレゼンテーションを1回ずつ行う。

### iv) Grammar

文法の授業である。内容は高校までの内容ではあるが難易度は少し高めである。テキストを用いて、先生が一通り内容の説明をした後質問やディスカッションの時間が設けられ、問題演習へと移っていく。音楽や映画、新聞などを文法的に分析することもあるので、より実践的な知識を身に付けられる。

### v) Accent Reduction

発音のトレーニングの授業である。内容自体はゲームや簡単な発表をするだけなのだが、とにかく多く話すことを求められる。最初にどの発音に注目するか決め、会話中の発音の間違いを先生が指摘していく。

### vi) American History

アメリカの歴史の授業である。基本的にアメリカの成り立ちから順に学んでいく。国情生のための授業で、課外授業に出ることも何度かあった。テキストやプリント、絵本など教材は様々であった。

### vii) American Culture

アメリカの文化の授業である。セッション1は自然と歴史的建造物、セッション2はハリウッドとサンクスギビングを学んだ。学んだことについては簡単なレポートを書くほかに、何回かプレゼンテーション形式で発表していく。また、最も課外授業が多くアメリカ文化を直接体感できる。

### viii) USA and Japan

日米関係を学ぶ授業である。セッション1では主に日米をあらゆる面で比較し、セッション2では主に日米の歴史的なつながりについてまなんだ。国情生のための授業である。

#### ix) Writing Lab / Grammar Lab

セッション1では月曜日と火曜日と同様に American History と USA and Japan がそれぞれ割り当てられていた。本来は Reading、Writing、Communication Skills、Grammar にそれぞれ Lab クラスがあるのだが、国情生のスケジュールは特殊なためこれらが省かれていた。しかし Writing と Grammar に関しては課題の量が多く、授業の進行に影響を及ぼすということでセッション2から変更された。内容は基本的に午前の授業の延長である。

#### x) TOEIC Preparation

TOEIC の問題の解き方の注意点を学び実際にトレーニングしていく授業である。実際の過去問も多く扱う。

#### xi) Conversation Partner Hour

ELI の生徒 2 人から 3 人に対しネイティブの学生が 1 人割り当てられる。真剣なディスカッション、他愛もない雑談からゲームまで、内容は様々である。この時間はあくまで目安であり、当人たちの都合によって集まる日時は自由だ。先生方の丁寧な英語だけでなく本当のネイティブな英語に触れられる。

#### xii) Activity Buddy

国情生 2 人から 4 人に対しネイティブの学生が 1 人割り当てられる。特に決まった内容は無いが、学校のイベントへの参加やショッピングなど様々なプランを立ててくれる。

#### xiii) サンクスギビングブレイク

1 週間強の長い休暇。学校の食堂は閉鎖してしまうので地元の家庭で夕食をご馳走になった。ELI でも一度パーティーをした。感謝祭ならではの料理を食べる機会が多い。この期間中はネイティブの生徒は実家に戻り、留学生はほとんどが旅行に出かける。

#### xiv) ELI パーティー

ELI の生徒全員に修了書が渡された。料理を食べながら、仲間たちや先生方との別れを惜しんだ。

#### xv) Homecoming Parade

大きなパレードが行われ、これに Japanese Student Organization (JSO) として参加。浴衣や甚平を着用し日本国旗を掲げ、地元の子供たちにお菓子を配りながら街を練り歩いた。

## 5 当初目的・目標への達成度

今回の研修の目的の達成度について、それぞれまとめる。

### i)英語の能力向上

すべての分野において留学前と比べると明らかな違いが見られた。TOEIC の点数は留学前と比べ 100 点以上伸びており、900 点の壁も見えてきた。英語で長い文章を考えることにも慣れ、それが会話時の返答の速さの向上にも役立っている。リスニングも以前は聞き取れなかったレベルのものが聞き取れるようになっていた。

### ii)視野の拡大

留学前の予想よりアメリカの文化や考え方についての理解を深めることは出来た。特に **American Culture** の授業で実際にアメリカの文化に触れられる機会が多く設けられていたことが大きい。また様々な国籍の仲間を作ることが出来、アメリカ以外の文化、思想にも触れることが出来た。これにより以前より物事を様々な角度から見ることを強く意識するようになった。また日本と外国の違いを多く知り、違いを受け入れるということの大事さを学んだ。留学前よりは確実に視野は広がったが、まだ拡大の余地は大いにある。

### iii)自立

生活の管理をするうえで誰にも頼れない状況は自立に非常に役立った。自立するとはどういうことなのか改めて考える機会にもなった。問題解決能力も以前より身に付いた。

## 6 反省・課題

4 か月に及ぶ留学で多くのことを学んだ。しかしそれは満足感だけでなく、より学びたいという食欲と同時に生んだ。言語能力、視野の拡大、自立のすべての目標においてまだ満足できていない部分がある。この留学で得た知識や思い出をここで途切れさせるのではなく、目標のさらなる達成に向けての糧としていく。

### 謝辞

今回、ELI にて懇切丁寧な指導をしてくださった **Jill Thomas** さん、**Valerie Heming** さん、サンクスギビングで夕食をご馳走してくださった **Jeremy VanWey** さん、その他大勢の関係者の皆様に深く感謝申し上げます。また、本学のアメリカ留学担当で 2017 年度前期の授業、留学中の現地サポート、帰国後の各種活動への指導を賜りました、藤本直生先生、矢口裕子先生、小林伊織先生には心より感謝いたします。最後に、本セミ新潟国際情報大学からいただきました奨学金により、本セミナー参加が実現し、有意義な体験ができたことを、心から感謝いたします。



## 付録：研修日誌

### 8月22日

9時30分新潟駅集合

高速バスで成田空港へ移動

成田空港わきのホテルにて宿泊、矢口先生と合流

#### ・所感

前日になってもアメリカに行くということが実感できず、あまり不安などはなかった。宿泊中は留学メンバーでゲームや雑談をして進行を深めていた。それまでとは違う一体感がグループの中に生まれ始めた。

### 8月23日

ホテルから空港へ移動

ダラスフォートワース空港で乗り継ぎ、カンザスシティ国際空港へ

カンザスシティから学校までバスで移動

入寮手続き

#### ・所感

約14時間に及ぶフライトは留学メンバーのほぼ全員から体力を奪った。移動のバスが非常に小さくさらに体力を奪われた。入寮手続きの後にはもう疲れきっていてすぐに睡眠をとった。

### 8月24日—8月25日

オリエンテーション

健康診断

買い物

プレースメントテスト

ボーリングパーティー

#### ・所感

学生IDの作成や今後の流れの確認を済ませて健康診断を受けた。注射と採血が日本より痛く、注射の位置によっては直角に刺すこともあり、最初のカルチャーショックを受けた。ボーリングパーティーは単純にボーリングを楽しんだだけでなく、一緒に参加していた外国人と早速交流を図ることが出来、留学生活を楽しみに思う気持ちが強まった。

**8月28日—8月29日**

セッション1 授業開始

・所感

日本とは学期の始まりがずれており、この時すでに授業は3週目であった。そのため非常に慌ただしく混乱した出だしであった。また課題の多さにも驚きを隠せなかった。

**9月1日**

アメフト観戦

・所感

アメフトの観戦は初めてであったのでルールの理解に苦しんだ。オープニングセレモニーで戦闘機が飛ぶなど、大学の試合とは思えないような規模であった。

**9月10日**

メジャーリーグ観戦

・所感

日本とはまた違う迫力とお祭り騒ぎが特徴であった。カンザスシティロイヤルズはこの時連敗していたそうだが、この日はチームの久しぶりの勝利を運よく目にすることが出来た。

**9月11日—9月14日**

中間試験

・所感

最初の慌ただしさが収まらないまま迎えた中間試験。期末試験に向けてどういうことをすれば良いのか少しつかむことが出来た。またここでひと段落がつくためようやく落ち着きを取り戻すことが出来た。

**9月22日**

American Culture trip (Jefferson City)

・所感

授業の一環として州の首都へ行った。ミズーリ州の成り立ちを主に学んだ。州庁には美しい絵画やステンドグラスが多用されていた。

9月23日

### ISO trip (Kansas City)

・所感

最初に The Nelson-Atkins Museum of Art に行き西洋の芸術に触れた。その後近くのプラザと呼ばれる専門店が密集した地区に行った。ちょうどお祭りが開催されており、通常のショッピング以外に屋台や屋外ライブを楽しむことが出来た。お祭りのテーマが芸術だったので、絵画を販売しているテントも多数あった。

10月3日ー10月4日

期末試験

セッション1終了

・所感

試験の出来は満足なものだった。ここまでは非常に長い期間のように感じられた。

10月7日

### Japan Festival

・所感

USA and Japan の授業の一環で訪れた。久しぶりに見る日本の物に懐かしさを覚えていた。いくつか中国や韓国の物が混ざっていた。日本に興味を持ってきている人の多さを実感しつつ、少し勘違いもあることも知った。

10月8日

ミュージカル鑑賞

・所感

Foot Loose というミュージカルを鑑賞した。反響などによって英語が聞き取りにくく物語をあまり理解できなかった。リスニング能力不足を実感した。

10月9日

セッション2授業開始

・所感

クラスは変わらないが、レベルが1つ上がるということで不安に満ちていた。初回授業の

説明を聞き、セッション1 とやることはあまり変わらず安堵した。

10月14日

### Homecoming Parade

・日本語であいさつをしてくれる人が多かった。日本のイメージを悪くしないよう振る舞うことを意識した。

10月16日

### American History trip

・所感

授業の一環として地元の古い法廷と教会を訪れ、歴史を学んだ。その後スモアを食べ、ハロウィンに向けてかぼちゃのペイントをした。アメリカ文化とその背景を学ぶことが出来た。

10月27日

### American Culture trip (Back Eye acre)

・所感

地元の少し大きめの農場を訪れた。サンクスギビングに向けて収穫された野菜の説明を聞いた後は動物たちとも触れ合った。サンクスギビングについての理解を深めることが出来た。

11月6日—11月9日

### 中間試験

・所感

アメリカでの勉強にはだいぶ慣れてきて、とても気楽に試験に臨むことが出来た。

11月11日

### ISO Food show

・所感

様々な国の人々が自国の料理を振る舞うイベント。日本の料理をおいしいと言ってくれる人が多く達成感に満ち溢れていた。また様々な料理を食べ比べ、その国の特徴を感じ取れた。

11月17日—11月26日

サンクスギビングブレイク

・所感

感謝祭独特のおいしい料理を食べる機会が多かった。地元の家庭でも夕ご飯をご馳走していただいた。家によっては子供と遊ぶ、またはクリスマスの飾りつけを手伝うなどしてアメリカ文化を楽しんだ。またこの期間中にセントルイスへ旅行した。観光地を楽しむだけでなく、少し衰退したところに迷い込み銃痕を発見したり、抗議活動を目撃するなどアメリカの怖い部分も学ぶことが出来た。

12月4日—5日

期末試験

・所感

ついにすべて終わったという達成感に満たされていたと同時に、留学が終わってしまう寂しさも感じていた。

12月6日

ELIパーティー

・所感

仲間たちと別れの言葉を交わし、今後の予定や夢を話した。中には航空会社への就職が決まり、その制服で出席しているものもいた。またこの場で先生方への感謝状を渡した。

12月7日

TOEIC試験

・所感

予定からかなり遅、帰国直前に試験を受けることとなった。問題を解くスピードが上がっており、確信の持てる問題も多く留学の成果を実感した。

12月8日

早朝に寮を出発、カンザスシティ国際空港までバスで移動

シカゴ・オヘア国際空港で乗り継ぎ

成田空港着、解散

・所感

バスの規模が小さく出発まで時間がかかってしまい危うくフライトを逃すところであった。行きと同じくまた帰るということの実感が湧かなかった。約 14 時間のフライトには相変わらず体力を奪われた。日本に着いたときようやく留学が終わったことを実感した。